

令和6年度学校経営計画書

学校名 三次市立作木小学校
校長名 穂山 英嗣

I 学校の状況

学級数	5	児童・生徒数	27	教職員数	10
メールアドレス	sakugi-e@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	www.sakugi-e.hiroshima-c.ed.jp				

II 学校教育目標

ふるさと作木を愛し、新しい時代をたくましく生きる児童の育成 一元気 本気で 最後まで一
【目指す子ども像】・学び進む子 ・考え行動する子 ・共に成長する子

III 使命・存在意義（ミッション）

- ・主体的・協同的な学びを推進し、自分の夢や希望に向かって新しい時代を切り開く子供を育成する。
- ・ふるさとに誇りをもてる特色ある教育活動の推進と小中一貫教育の充実により、地域とともに発展する。

IV 重点事項（努力点）

- ①確かな学力 : 主体的・対話的で深い学びの実現
- ②豊かで健やかな心身 : 自己肯定（有用）感と共感的理解・体力づくり・生活リズムの改善
- ③地域とともにある学校 : 「作木ふるさと学習」の充実・CS推進
・服務規律の厳正確保と危機管理の徹底 ・複式教育の充実と日々の実践

V 中心価値・行動規範

- 教育的愛情と使命感をもち、児童の可能性を伸ばします。
- 磨き合い、協働して実践します。
- 働き方改革をすすめて、児童と向き合う時間を大切にします。

VI 現状分析（○成果 ●課題）

へき地性	<ul style="list-style-type: none">○ 自然環境に恵まれ地域資源（人・歴史・文化等）が豊富で体験的な学びができる。○ 「子どもは地域の宝、学校は時代を担う人材育成の場」という認識のもと、学校教育に対する地域・保護者の関心が高く協力的である。● 少子高齢化と過疎化の急激な進行、地域コミュニティの機能低下等、地域の自立存続、活性化に向けた取組に危機感が強い。● 3つの学校の統合により校区が広くなり地域での子ども同士のつながりや学校と地域の結び付きが弱まっている。また、児童数は減少傾向にある。
小規模性	<ul style="list-style-type: none">○ 保育所・小学校・中学校が各1つで、距離的にも近く、連携が比較的容易である。● 人間関係が固定化しやすく、競い合い高め合う意欲が比較的薄い。
複式形態	<ul style="list-style-type: none">○ 学習リーダーを立てて主体的・協働的に学ぶ力を養うことができる。● 直接指導の時間が限られる。
学力面	<ul style="list-style-type: none">○ 三次市学力到達度検査において全国平均を上回る児童の割合は55.2%である。● 同検査で学年平均が全国値を下回る教科もあり、基礎学力の定着に課題がある。
体力面	<ul style="list-style-type: none">○ 新体力テストの全国平均以上の項目達成率は56%であり、AB率は微増である。● 運動への親しみに個人差があり、体力の低下傾向が大きい。
生活面	<ul style="list-style-type: none">○ 素直で何事にも意欲をもって取り組む児童が多く、落ち着いて生活している。● 児童アンケート、i-check等における「自己肯定感」「思いを伝える」「認め合い」の項目の肯定的結果は8割に届かず、間違いや失敗などを恐れる傾向がある。